

底力の秘密

第四十七話 平成三十年八月八日

サッカー日本代表監督は大方の予想に反して日本人監督となる。

新監督、就任会見で「日本人のメンタリティー、日本人の身体能力の良さを生かしてやっていくことが大切」と。

チームワークの良などの＜日本人のメンタリティー＞は合点がいくが、＜日本人の身体能力の良さ＞とは……………？

そのむかしの東京オリンピック。日本が勝てそうな試合の実況の折は「家に帰ってテレビを観ろ」と高校の先生。4年前、アンポ・ハンタイで先生、東京へ行っていた。

高校三年生、家のテレビの前で啞然とした。

中学生が高校生と戦っていた。この体格の差は、先のロシアワールドカップもしかり。高齢者、家のテレビの前でため息をつく。

実はコレ、欧米に負けないため明治政府が、体を大きくする栄養学を選んだ結果の後遺症。

明治九年、体を大きくする栄養学のため東大に招かれたドイツ医師・ベルツ。

貧弱な身体の人力車の車夫の身体能力のスゴサに驚かされた。

東大教授に勧められ日光東照宮を見物。馬で東京から日光まで十四時間。途中、馬を六回乗り替える。

日光東照宮に感動し再び。今度は人力車。その車夫、交代することなく一人で十四時間半で着いてしまった。

さすが栄養学の医師。実験を開始。人力車夫を二人を雇い、三週間、食生活を調査。欧米食の肉類などの食事を取らせたら疲労でダウン。元の普通の食事に戻してほしいと。すると元気に走り出した。また、こんなに母乳が出る民族は見たことがないと驚いた。

しかし、欧米コンプレックスの塊の明治政府は、ベルツの意見を一蹴した。

日本人新監督、『ベルツ日記』を読んでいたのだろうか。

